

## オーストラリアでの 3 週間

### 1. 生活

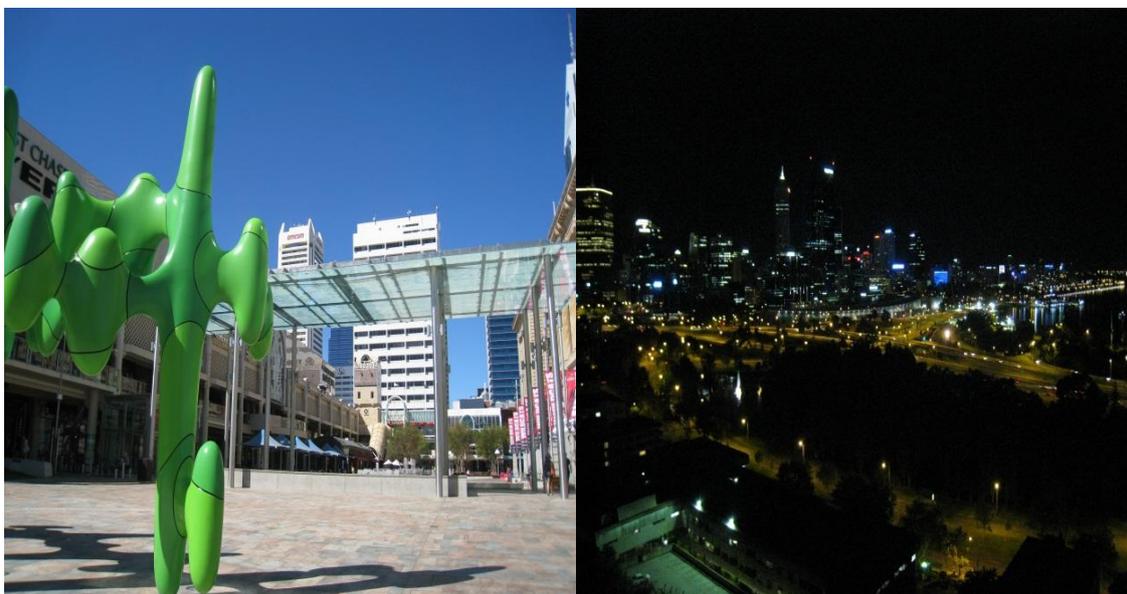
今回研修を行ったのはオーストラリアの西部にあるパースである。気温は高いが乾燥しており、日中の日差しが強いため日焼け止めが必要となる。しかし、朝晩は気温が下がり肌寒いことがある。パースは水不足である。そのため私のステイ先ではシャワーを浴びる時間に制限があった。また洗濯も週に1度まとめて行っていた。パースでは店が5時には閉まってしまうため家で過ごす時間は毎日たくさんあった。私は毎日6時には起きていたがパースの人はその分朝が早いらしく、私が起きるとすでにホストファザーは仕事に行っていた。土日はパースやフリーマントルに行った。多くの店が開くのは12時からであるため朝はゆっくりすることが出来た。家は平屋が多く敷地が広いため日本の家より広々感じた。そのため空が広く見えキングスパークから見た夜景も綺麗であった。パースで大変だったのは交通手段である。本数も少なく1本乗り過ごすと次は30分後なども多々あった。その上バスは手を上げないと止まってくれない。また、日本のようなアナウンスもないので降りる場所の風景を覚えておかなければならなかった。そのためバスの中では寝ることが出来なかった。パースは物価が高くジュースや水などの飲料は2~3倍ほどする。その分パースでの最低賃金は日本と比べて高く設定されているため生活には困らないであろう。

### 2. カーティン大学

今回英語研修を行ったカーティン大学は州最大の大学である。キャンパスは広大で緑も多く過ごしやすく、メガネやドラッグストア、パブなどの店も多くあり便利である。

授業は午前中にクラスに分かれて英語を勉強し、午後は午前同じく授業やパースの観光地を訪たりオーストラリアの文化を学んだ。英語の授業は主に文法であった。文法の説明ももちろん英語であるため受けていると説明の仕方に新鮮味を感じた。私のクラスはアラブ人が多いクラスであったが授業の開始時間になってもクラスの半分ほどしか生徒がおらず遅刻者が多かった。これはアラブ人だからなのかオーストラリアのゆったりとした生活

がそうさせたのか疑問が残った。カーティン大学は総合大学であるがまえば工科大学であったためエンジニアを目指す学生もいた。



パースの駅前と夜景

### 3. ホストファミリー

私がお世話になったホストファミリーは父・母・娘・息子の4人に猫が1匹、鶏が2羽という家族であった。以前から日本人を受け入れており味噌汁や箸がありうれしかった。私がいたときはちょうどダイニングの改装工事をしているところであったため食事はリビングでとっていた。工事は友人に頼んでいるらしく、友人が時間のある時に来て行うため私のいた3週間では完成までいかなかった。完成を見る事が出来なかったのが残念である。食事はパスタやステーキ、キッシュに魚のグリルなど種類が多く飽きることはなかった。しかし基本的に薄味でありソースや塩コショウを自分で調節しながら食べていた。ホストファミリーとは週に1度買い物と一緒に行き日本では売っていない食べ物などを教えてもらった。家では小学生の子供たちがゲームに夢中で毎日飽きずにやっており、このようなところは日本と変わらないなと感じた。私のホストファミリーはとても親切にしてくれた。大学までの道順を車で教えてくれ、帰る時にバスが出発するときまで残って見送りをしてくれるなど私はこの家族と連絡を取っていきたい。



フリーマントル駅

#### 4. 観光

パースやフリーマントルは街並みが綺麗で散歩するにはとても良い場所だ。オシャレなカフェが多くコーヒーもおいしい。回転寿司などもあり日本食も食べることが出来る。多くの日本食の店では日本人のスタッフがいるため気軽に頼むこともできる。フリーマントルは港町であるため、海辺には飲食店が軒を連ねており海を見ながら食事ができる。

キングスパークはパースのすぐ近くにある大きな公園でワイルドフラワーをはじめオーストラリアならではの植物がたくさんある。夜はパースの夜景を一望できるため観光客の集まる場所となっている。

ロットネス島はフリーマントルから船で30分ほどのところにある島で自然が多いリゾート地で多くの観光客が訪れる。この島にはクオッカと呼ばれるこの島にしか生息しない動物もおり人気の場所だ。道が舗装されているため自転車で島内をまわることができ、しぜんを満喫できる。

## 5. まとめ

今回の研修を通して私はもっと英語を話せるようになりたいと感じた。私は相手が言っていることを聞き取ることが出来ても返事をうまく英語にすることが出来ずにもどかしい思いを何回もしました。普通に生活しているだけなら身振り手振りや単語をつなげることでも何とかなるが、自分の考えをしっかりと相手に伝えるためにはやはり英語を正確に話さなければならない。そこで私はこれからも英語の勉強をしていきたい。



ロットネス島のクオッカ